



第三日野小学校 おやじの会では、目黒駅前商店街振興組合が主催した第12回「目黒のさんま祭り」に参加し、岩手県宮古市から直送された新鮮なサンマを焼くお手伝いをしました。

目黒のさんま祭り（品川区）支援（9月9日）

朝の9時前から集合したおやじ達は、焼き台2台を任せられ、炭を起こし、サンマを焼く作業に取り掛かった。煙が目にしみ、焼き台からは灼熱の風、おまけに台風9号の遺産とも言える真夏日。こんな環境の中、おやじ達とサンマの格闘は開始された。

岩手県宮古産のサンマ5000匹、徳島県神山町産のスタチ1万個が振る舞われた。



目黒のサンマ（諸説ありますが、真偽のほどは... あらすじは以下のような感じです。）

何もすることがないのが昔のお殿様という商売。今日も供の者を引き連れて目黒まで狩りにお出掛け。さんざん狩りを楽しんだが、そのうちお腹がすいてきた。何か食するものをお望みだが、あいにくランチの用意がない。「何もないのか、それでは買ってまいれ」と言われても、店もない。そこへなんととも言えないいい香りがブーンと流れてきた。「これこれ、このよい匂いは何じゃ」時は秋。近くの農家で脂たっぷりのったサンマを焼いているらしい。「殿、あれは下々の者が食すサンマという下賤な魚でございます。上様が召し上がるようなものではございません」そう言われてもすきっ腹にいい匂いがしみ通って我慢できない。「よいよい、下々の食するものがわからねば、上に立つ者とは言えぬ。苦しゅうない、サンマをこれへ持てーい」さて、食べたサンマの美味しいこと、美味しいこと。さんざん食べて大満足。「予は満足じゃ。帰るぞ」お城に帰った殿様は、すっかりサンマに病みつきになってしまった。夢にまで見るサンマの姿、その匂い。しかし、格式高い城中ではサンマが食膳に登場するはずもない。そこはお殿様だから、権力でサンマを食べることに。こうなると上様あつての家来だから、言いつけに従うしかない。だが、あれからだいぶ日が経ち、サンマのシーズンは終わっている。サンマ捜索隊を組織してやっと一匹見つけてきた。これを料理番が丁寧に料理。ご重役がそばから、「熱いとやけどをめされる」、「その小骨が喉に刺さっては」と口を出す。毛抜きで小骨を抜いて、「殿、サンマにございます」「これがサンマか、形は以前のものと似ても似つかないが、かすかに匂いが残っている。とりあえず一口食べたが、これが超まずい。「これはどこのサンマじゃ」「房州でとれたものがございます」「何！房州？房州はいかん。サンマは目黒に限る」



三日野の親子も応援に

お世話になった横田さんはおやじの会メンバー
地域企業のNTTドコモさんも一緒に参加

《編集後記》

初めて焼き手として参加した目黒のサンマ祭り、食べ終わったお客さんが、「美味しかった、長時間列んだ甲斐があった」と声をかけて下さった。来年も是非、参加したい。（文責 山田）

